

# 平成 25 年度自己点検・評価書

大学院教育学研究科教育科学専攻の質の向上

使命・役割を踏まえた附属学校の在り方とその成果



平成 25 年 12 月  
福岡教育大学

## - 目 次 -

### 評価項目 1: 大学院教育学研究科教育科学専攻の質の向上

- 【評価基準 1】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1  
アドミッション・ポリシーが明確に定められ、それに沿って適切な学生の受入が実施されており、入学定員が適切に確保されている。
- 【評価基準 2】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4  
教育課程が体系的に編成され、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっている。
- 【評価基準 3】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7  
授業科目の内容が学生のニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮されており、研究・論文指導が計画的に行われ、講義、演習等の授業形態の組合せとバランスが適切であり、単位の実質化への配慮がなされている。
- 【評価基準 4】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13  
各学年や修了時等において学生が身に付けるべき知識・技能等について、単位修得、進級、修了、修了後の進路の状況等から判断して、学習成果が上がっている。

### 評価項目 2: 使命・役割を踏まえた附属学校の在り方とその成果

- 【評価基準 1】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19  
地域の教育界のニーズを把握する体制が確立されているとともに、学校現場が抱える様々な教育課題について、実験的・先導的に取り組み、その成果を地域に還元している。
- 【評価基準 2】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25  
大学の教育に関する研究に組織的に協力する体制が確立され、大学と附属学校が連携して、附属学校を活用する研究計画の立案・実践が行われている。
- 【評価基準 3】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29  
附属学校の使命・役割を踏まえた附属学校の在り方やその改善・見直しについて十分な検討や取組が行われている。

なお、今回の自己点検・評価においては、評価項目 2 の評価基準に教育実習を含めていない。

# 評価項目1:大学院教育学研究科教育科学専攻の質の向上

## 評価項目1 自己評価及びその判断理由

(自己評価)

一部の基準に課題があるが、おおむね水準を満たしている。

(判断理由)

【評価基準1】アドミッション・ポリシーが明確に定められ、それに沿って適切な学生の受入が実施されており、入学定員が適切に確保されている。

### (1) 大学院教育学研究科教育科学専攻の概要

本学教育学研究科は、学部教育の基盤の上に、精深な学問・芸術研究の精神に支えられ、教科内容、人間の発達や人格形成を理論的に究明し、特にこれらを教育課程・実践の中に創造的・活動的に生かすことのできる高度な教職専門の学識と実践力をもった教師及び教育研究者の養成を図ることを設置目的として、昭和58年に5専攻が設置され、その後、平成8年度までに新たに7専攻を設置し、12専攻とした。

平成21年度には、教育を取り巻く社会状況の変化に伴い、教員には教育上の諸課題に対応しうる高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量が求められている状況に対応して、12専攻を教育科学専攻(修士課程)の1専攻に改組し、「学校教育の諸課題を見据えた、教育科学の理論と研究能力を身につけた専門領域リーダーとなる教員」の養成を目的として、教育科学専攻の下に14コースを設置した。

(改組前)

(改組後)

	専攻・分野		募集人員
	学校教育 専攻	教育学分野	8人程度
学校心理学 分野		4人程度	
教育臨床心 理分野		3人程度	
特別支援教育専攻		8人	
国語教育専攻	8人		
社会科教育専攻	8人		
数学教育専攻	8人		
理科教育専攻	10人		
音楽教育専攻	7人		
美術教育専攻	8人		
保健体育専攻	7人		
技術教育専攻	7人		
家政教育専攻	7人		
英語教育専攻	7人		



	専攻・コース		募集人員
	教育科学 専攻 80人	教育活動創造コース	5人程度
学校心理コース		3人程度	
教育臨床心理学コース		6人程度	
特別支援教育コース		6人程度	
国語教育コース		6人程度	
社会科教育コース		6人程度	
数学教育コース		7人程度	
理科教育コース		7人程度	
音楽教育コース		7人程度	
美術教育コース		7人程度	
保健体育コース		5人程度	
技術教育コース		5人程度	
家政教育コース		5人程度	
英語教育コース		5人程度	
教職実践 専攻 20人	教育実践力開発コース	10人程度	
	生徒指導・教育相談リーダーコース	5人程度	
	学校運営リーダーコース	5人程度	

また、教育科学専攻は、教育系の大学院課程の目的を達成するため、大学院設置基準に定められた研究指導教員及び研究指導補助教員の配置基準数を上回って、必要な教員を確保している。

【資料 1-1-A】教育科学専攻の教員数

(平成 25 年 4 月 1 日)

コース名	研究指導教員				研究指導補助教員	
	現員数	うち教授	基準数		現員数	基準数
				うち教授		
教育活動創造コース 学校心理コース 教育臨床心理学コース	17	12	6	4	11	4
特別支援教育コース	8	6	3	2	2	2
国語教育コース	7	7	4	3	3	3
社会科教育コース	6	6	6	4	6	6
数学教育コース	7	7	4	3	4	3
理科教育コース	12	11	6	4	10	6
音楽教育コース	4	4	4	3	5	3
美術教育コース	4	4	4	3	8	3
保健体育コース	8	7	4	3	3	3
技術教育コース	6	4	3	2	2	2
家政教育コース	4	4	4	3	3	3
英語教育コース	6	5	3	2	4	2

【別添資料 1-1-1】「福岡教育大学大学院案内 教育学研究科 2014」

(2) アドミッション・ポリシー

大学院の目的、教育研究目標に基づき求める学生像や入学者選抜方針を明示するため、教育科学専攻のアドミッション・ポリシーを定め、また、その専攻にあるコース毎に、それぞれのアドミッション・ポリシーを定めている。公表方法としては、福岡教育大学大学院案内、学生募集要項及びホームページに加え、入学試験説明会において説明している。

【別添資料 1-1-2】教育科学専攻・コースのアドミッション・ポリシー

(3) 入学者選抜方法

入学者選抜方法について、アドミッション・ポリシーに基づき、専門科目及び小論文等の筆記試験並びに実技試験等を募集単位毎に適宜組み合わせ、研究計画書及び口述試験等の内容を踏まえて選抜している。

【別添資料 1-1-3】大学院教育学研究科学生募集要項（抜粋）

(4)入学定員の確保

教育科学専攻のコース毎の入学定員の充足率（平成 21～25 年度）は次の通りである。

【資料 1-1-B】教育科学専攻のコース毎入学定員充足率

コース名	募集人員	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
		入学者数	定員充足率	入学者数	定員充足率	入学者数	定員充足率	入学者数	定員充足率	入学者数	定員充足率
教育活動創造コース	5	8(4)	160%	8(4)	160%	8(3)	160%	6	120%	7(2)	140%
学校心理コース	3	2	66%	1	33%	3	100%	1	33%	3	100%
教育臨床心理学コース	6	3	50%	6	100%	6	100%	4	66%	9	150%
特別支援教育コース	6	5	83%	6(1)	100%	3	50%	5	83%	3(1)	50%
国語教育コース	6	5	83%	6(1)	100%	4(1)	66%	5(3)	83%	8(3)	133%
社会科教育コース	6	3	50%	5(1)	83%	1	16%	4(2)	66%	1	16%
数学教育コース	7	7	100%	8(1)	114%	4	57%	7	100%	8(1)	114%
理科教育コース	7	7(1)	100%	7	100%	7	100%	7	100%	7	100%
音楽教育コース	7	4	57%	8	114%	10	142%	11	157%	10	142%
美術教育コース	7	7(1)	100%	7	100%	9	128%	8	114%	8	110%
保健体育コース	5	4(1)	80%	8	160%	7	140%	7(3)	140%	6	120%
技術教育コース	5	3	60%	4(1)	80%	5	100%	4(1)	80%	4	80%
家政教育コース	5	3	60%	4	80%	4(1)	80%	2(1)	40%	3	60%
英語教育コース	5	6(1)	83%	5	100%	4	80%	2	40%	5	100%
合計	80	67 (8)	84%	83 (9)	101%	75 (5)	94%	73 (10)	91%	82 (7)	103%

( ) は外国人留学生数で内数

教育科学専攻全体の入学定員については、過去 5 年間のうち 3 度にわたって充足することができなかった。また、定員充足率が低調に推移しているコースもある。今後、ミッションの再定義を踏まえ、従来の教科教育に関する領域を再構築するなどして、修士課程の在り方を見直すことを検討し、入学定員の確保に努めていくこととしている。

以上のことから、入学定員の確保については課題があり、改善を要すると判断している。

【評価基準2】教育課程が体系的に編成され、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっている。

(1)教育課程の編成

教育科学専攻及び各コースにおいては、教育目的を設定するとともに、各コースにおいては、教育課程編成方針を設定し、ホームページで公表している。

【別添資料 1-2-1】大学院教育学研究科教育科学専攻各コースの教育目的

【別添資料 1-2-2】大学院教育学研究科教育科学専攻各コースの教育課程編成方針

平成 21 年度に行った改組に伴い、学校現場から期待されている教員養成をめざし、(1)理論知と実践知の融合、(2)教員としての高い専門性を支える広い視野の2つの観点から、カリキュラム改革を行った。それまでの「学校教育に関する科目」、「教科教育に関する科目」、「教科に関する科目」、「特別支援教育に関する科目」に加え、「教育科学基礎科目」、「発展科目」、及び「広域発展科目」を開設した。この「教育科学基礎科目」、「発展科目」、及び「広域発展科目」について、大学院学生にアンケートを行ったところ、全般的傾向として、開設の目的に合致した授業運営がなされており、受講生の満足度も高くなっていた。

また、研究指導のための2年次必修科目「課題研究」を置き、修士学位授与のための論文作成に結びつけている。さらに、各コースではコースツリーを作成し、教育課程の体系的編成を示すとともに、履修指導に供している。

【資料 1-2-A】平成 21 年度に新設した科目

科目名	内容
教育科学基礎科目	1 年前期・後期に、総合性と専門性を併せ持つ力量・資質を養う導入部として、「専門の中の教養」と位置づける専攻の共通科目である。各コースから、専門教養的な授業を提供し、担当教員が個々の専門領域の観点から、教育者の養成に繋がるような知見を提示していく。
発展科目	専門科目で積み上げてきた知識・理論と教科教育で学んだ内容を融合させ、先端的な研究内容及び最新の学術的成果を教育実践、教材開発、教育方法の開発につなげる科目である。 コース所属の複数教員が協働的に「理論」と「実践」を担当し、設定した課題やテーマについて、学生が詳細な情報収集と客観的な分析を自主的に報告書として取りまとめ、その内容についてプレゼンテーション・討議を行うものである。
広域発展科目	1 年後期・2 年前期に教育科学専攻の共通の授業科目として、複数コースの教員が共同で担当し、複数のコースの学生に受講させる。 この授業においては、現代社会における教育上の課題を専門領域間の垣根を越えて領域の専門的知見を活かし、それぞれの視点及び方法論をもって総合的に論考、討論し、教育課題に対するアプローチの仕方の多様性を認識し、各領域に固有な目的や特性を理解する。

【別添資料 1-2-3】教育科学専攻における新規授業科目に対するアンケート調査

【資料 1-2-B】教育科学専攻の修了必要単位数

科 目		教育科学基礎科目	学校教育に関する科目	教科教育に関する科目	教科に関する科目	特別支援教育に関する科目	自由選択科目	発展科目	広域発展科目	課題研究	合 計
コ ー ス											
一般 学生 ・ 社会 人	教育活動創造コース	2	16	4			2	2	2	2	30
	学校心理コース										
	教育臨床心理学コース										
	特別支援教育コース										
	国語教育コース	2	4	8	8		2	2	2	2	30
	社会科教育コース										
	数学教育コース										
	理科教育コース										
	音楽教育コース										
	美術教育コース										
	保健体育コース										
	技術教育コース										
	家政教育コース										
英語教育コース											
現職 教員	教育活動創造コース	2			22			2	2	2	30
	学校心理コース										
	教育臨床心理学コース										
	特別支援教育コース										
	国語教育コース	2			20			2	2	4	30
	社会科教育コース										
	数学教育コース										
	理科教育コース	2			22			2	2	2	30
	音楽教育コース										
	美術教育コース	2			20			2	2	4	30
	保健体育コース										
	技術教育コース	2			20			2	2	4	30
	家政教育コース										
英語教育コース											

(注) 現職教員とは、小学校、中学校、中等教育学校、高等学校、幼稚園及び特別支援学校の校(園)長、副校(園)長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭及び養護教諭をいう。

【別添資料 1-2-4】教育科学専攻各コースのコースツリー

### (2) 修了認定及び学位論文の評価方法

修了認定については、当該要件を「福岡教育大学大学院規程」で定めるとともに、コースごとの「修士論文研究に関する指導指針」において修了認定基準を定めている。

学位論文の評価方法に関しては、「福岡教育大学大学院学位規程」において、学位論文審査及び最終試験によりA・B・C・Dをもって評価し、A・B・Cを合格とすること等を明記している。学位論文の審査手続についても規程等に明文化し、学位論文を提出した学生の指導教員が審査委員候補者を選出し、当該コース会議の議を経た後、教授会が審査委員を決定し、学位論文審査及び最終試験を委嘱することとなっている。

#### 【資料 1-2-C】福岡教育大学大学院規則（抜粋）

（課程の修了）

第 22 条 修士課程の修了は、大学院に 2 年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

#### 【別添資料 1-2-5】修士論文研究に関する指導指針

#### 【別添資料 1-2-6】福岡教育大学大学院学位規程

#### 【別添資料 1-2-7】福岡教育大学大学院学位論文審査について（重要通知）

### (3) 今後の方向性

平成 25 年 10 月 15 日の「教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議」において示された報告書では、各大学院において理論と実践の往還を重視した実践的科目を専修免許状取得に必要な 24 単位の中に位置づけて必修としていくことが求められているため、現在、実践的科目として考えられる内容を検討している。

また、「ミッションの再定義」において、教育委員会の幹部職員や公立の連携協力校の長等が構成員となる常設の教員養成の質向上に関する諮問会議を設置し、カリキュラムの検証、養成する人材像、現職教員の再教育の在り方などについて定期的に実質的な意見交換を行い、教育への教員養成に対する社会の要請を受けとめて、その質の向上を図ることとしている。

以上のことから、評価基準 2 に関わる取組み等を着実に推進していると判断している。



【評価基準3】授業科目の内容が学生のニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮されており、研究・論文指導が計画的に行われ、講義、演習等の授業形態の組合せとバランスが適切であり、単位の実質化への配慮がなされている。

(1)授業科目の内容の充実

(学生のニーズに配慮した授業科目の内容)

入学者選抜方法に関する調査報告書によると、教育学研究科の学生は、専門性の向上を強く志向していることを踏まえ、領域毎に多数の専門科目を開講している。また、平成21年度から導入した「発展科目」においては、専門科目の学修で積み上げた知識・理論と教科教育での学修内容を融合させ、学生の高度な専門的・実践的な能力の養成を図っている。

【資料1-3-A】H22、23年度入学者選抜方法に関する調査報告書（抜粋）

受験理由の重視得点によるランキング

	回答人数	平均値
1位 専門性を向上させるため	68	3.68
2位 教わりたい先生がいる	68	2.96
3位 自分の研究主題を追求するため	68	2.88
4位 修士(教育学)を取得するため	68	2.82
5位 免許・資格を取得するため	63	2.70
6位 教師になるため	62	2.63
7位 国立大学(法人の設置)である	67	2.55
8位 就職にあるいは将来の仕事に有利だから	67	2.48
9位 教員養成大学の大学院である	65	2.08
10位 高度な教育実践を学ぶため	68	2.05
11位 通学するのに便利である	60	1.57
12位 先輩・友人・家族などにすすめられたから	43	1.37
13位 就職指導ですすめられた	39	1.23
14位 自然環境や施設・設備等が良い	64	1.09
15位 夜間の授業が開講されている	60	1.09
16位 試験の日程の都合がよかった	50	0.86
17位 伝統がある	63	0.82
18位 他大学と比較した試験の難易度	50	0.78
19位 所属の教育委員会又は所属長からすすめられた	28	0.50
20位 その他	0	0.00

重視得点(とても重視4, やや重視3, ふつう2, あまり重視しなかった1, 全く重視しなかった0)

【別添資料1-3-1】教科に関する科目 教育学研究科学生便覧（抜粋）

【資料1-3-B】「発展科目」の例

授業科目名	授業の目標・概要	授業と教育との関連性
算数科の数学的背景の研究	小学校における算数科の教科内容(図形)について、教科専門の立場から数学的背景の研究を深めるとともに、教科教育の立場から数学教育実践に向けての考察および議論を行う。この発展科目を履修することにより、数学分野の修士論文の教育的示唆に関する見方を養うとともに、数学科教育分野の修士論文の数学的背景に関する考え方を培うことを目標とする。	数学の専門知識に基づいた教科内容の研究、さらに数学教育の見地からの指導法の研究を通して、数学科の教員に求められる実践的教科指導力を養成する。

現代自然科学と理科総論	物理・化学では、原子論に代表されるミクロな視点の科学的な展開、および、現代において児童・生徒が有する原子や分子などに対する視点や認識と授業を通じたその変容について、共に考察していく。生物・地学では、「動植物の生活」、および「生物の細胞」、「大地の変化」、「天気」、「地球と宇宙」からテーマを選ぶ。特に、地球環境において環境問題が発生し、これが生物に影響が及んでゆく状況を、横断的に見てゆく。	小中学校、高等学校における物理・化学・生物・地学分野（中学校では第一分野、第二分野）について、教科専門の立場から自然科学的背景の理解を深めていくとともに、教科教育の立場から教育実践に向けての考察を行う。
-------------	---	---

（学術の発展動向を取り入れた授業科目の内容）

個々の教員が自身の専門分野に関する最新の研究成果を取り入れている。また、本学の研究プロジェクトに参加した学生が、その研究成果を修士論文にまとめる例もあり、授業科目・修士論文指導の双方で最新の研究動向を踏まえた教育を行っている。

#### 【資料 1-3-C】最新の研究成果を取り入れた授業科目の例

授業科目名	授業の目標・概要	授業と教育との関連性
植物の環境応答 （教科に関する科目）	植物生理学の中で、環境応答や植物ホルモンに関する分野を中心に扱う。特に、最近、分子生物学的手法を用いて解明されつつある植物ホルモンの作用や環境応答の分子機構について講義する。	環境要因が植物に及ぼす影響を学ぶことで、学校現場において生命現象の不思議にアプローチするための科学的思考力の基礎を養成する。

#### 【別添資料 1-3-2】学長裁量経費 研究プロジェクト報告書

（社会からの要請に基づく授業科目）

前述した社会からの要請である（１）理論知と実践知の融合、（２）教員としての高い専門性を支える広い視野を実現するために、平成 21 年度にシラバスの記載内容を抜本的に見直し、当該授業科目と教育実践との関わりを明示するように改善し、学校現場での実践を想定した内容としている。

#### 【資料 1-3-D】社会からの要請に基づく授業科目の例

授業科目名	授業の目標・概要	授業と教育との関連性
自然・生命理解研究 （広域発展科目）	自然の姿はそれ自体、躍動的である。数学は自然界の 1 つの姿であるが、その審美的な美しさには驚嘆すべきものがある。自然科学の発展によって、自然の成り立ちをいきいきと語りことができ、この中で、生物とそれが有する生命にも、ますます深い見識が蓄積された。一方、人文科学的な点から、生命を見る視点も近年ますますクローズアップされて来っており、生命倫理、それに直結した医学にどのような課題があるのかにも、深い見識が問われる。本授業では、とかく理系と文系と分離しがちな体系を、より密接につなげ、生命に迫ってゆく。	学校現場において、生命を含む自然現象の不思議に対して、理系や文系といった枠にとらわれることなく、数学、理科、および人文科学的な様々な観点からアプローチできる基礎力を養成する。

(2) 修士論文での教育的内容及び指導体制の充実

修士論文については、各コース単位で「修士論文研究に関する指導指針」を設定し、この指針において、修士論文の中に「教育領域での応用可能性」の事項を記述するようしており、修士論文の作成過程で得られた学術的成果を教育実践の場でどのように還元・活用可能なかを考察させるようになっている。

また、論文指導においては、集団指導体制をとり、主指導教員のもとに2名以内の副指導教員が担当し、さらに平成22年度から、副指導教員の中に他コースの教員が1人入り、個々の専門領域を超えた広い観点からの指導も行うこととし、よりきめ細かな指導体制を構築している。

【資料 1-3-E】平成24年度修士論文

コース名	学位論文名又は演奏・作品及び関連論文名（参考論文）
教育活動創造コース	ボランティア教育に関する研究
	保育者養成校における人間関係力向上のための実践 - オベレッタの協働制作を通して -
	生徒指導における教師間の協働に関する研究 - ゼロトレランスの導入と生徒指導体制の在り方を中心に -
	チャールズ・テイラーの人間存在論の教育的意義に関する研究 - 道徳教育への示唆を中心に -
	社会教育におけるメディアリテラシーに関する研究
	日本の「生活科」と中国の「品德と生活」の比較研究
	日中の高等学校歴史教育における近・現代史事項に関する比較考察 - 歴史教科書の内容および時代別教授時間数の実態比較を中心に -
	コミュニティ・スクールにおける信頼を創造するマネジメントに関する研究
	公民館と社区学校に関する比較研究
学校心理学コース	小学生の規範行動を促進させるための実践的研究
教育臨床心理学コース	障害児・者きょうだいの成育過程に伴う家族成員との関係性における体験のプロセスに関する研究
	ユーモアスタイルと抑うつとの関連 - 情動知能に着目して -
	青年期における自己受容と内省との関連
	自閉症幼児・養育者への支援に関する研究 - 関係発達支援を療育者の視点から -
	発達障害児（者）に対する健常者の態度に関する研究
	大学生における被受容感と精神的健康に関する研究
特別支援教育コース	知的障害特別支援学校における体育の指導内容・方法に関する研究 - 水泳指導の検討を中心に -
	知的障害児の選択肢要求言語の形成についての検討
	吃音児者の吃音の軽減を考慮した調整法に関する検討

国語教育コース	読むという行為の本質に基づく文学教育論の研究 - 読者とテキストの望ましい関係を構築するために -
	韓国語母語話者の日本語破裂・破擦音の知覚 - ピッチを中心に -
	西尾実教材解釈論の検討 - 評論を中心に -
	日中挨拶のことばと行動に関する対照研究
社会科教育コース	「社会参加を方法とする社会科授業モデルの構築」
数学教育コース	構成的アプローチに基づく「整数の性質」の学習指導に関する研究
	高等学校数学科における微分積分領域の研究
	中学校数学科における平行線の取り扱い方についての研究
	数学教育における問題設定に関する研究
	ランダムウォークにおける極限定理とその応用
理科教育コース	日本産潮間帯性ササラダニ類の分類学的研究
	炭酸塩硬組織の化石化過程における初期変質
	ワラジムシ類の表面微細構造 - 化学生態の解明に向けて -
	日本産サソリモドキ類の分子系統地理学的研究
	フラックス法によるルビーの合成
音楽教育コース	演奏：シラフキ作曲 ピアノ第1番 作品8 関連論文：シラフキのピアノ作品についての研究 - ピアノ第1番 作品8を中心として -
	演奏：ヒンデミット作曲 ピアノ第1番 関連論文：ヒンデミットのピアノ作品に関する研究 - ピアノ第1番を中心として -
	演奏：ブラームス作曲：ピアノ・ソナタ第1番 Op.1 関連論文：ブラームスのピアノ作品についての研究 - ピアノ・ソナタ第1番 Op.1を中心に -
	演奏：ドビュッティ作曲オペラ《ラムレールのルチア》より“あたりは沈黙に閉ざされ”他 関連論文：ドビュッティの音楽作品に関する研究
	演奏：ハンデル作曲 歌劇《ジプソットのジュリオ・チェザレ》より“嵐の海で難破した小舟は”他 関連論文：ハンデルの音楽作品に関する研究
	演奏：R.レウカッポ作曲 歌劇《道化師》より“あの空高く、鳥達はさえずり”他 関連論文：R.レウカッポの音楽作品についての研究
	音楽の授業で形成される音楽に対する苦手意識の研究 - 学習性無力感の理論に基づく苦手意識形成要因の分析 -
	演奏：マヌ作曲オペラ《ウエル》より「手紙の歌」他 関連論文：19世紀フランスの音楽作品に関する研究 - マヌの音楽作品を中心として -
	演奏：シューマン作曲 幻想曲 Op.17 関連論文：シューマンのピアノ作品についての研究 - 幻想曲 Op.17を中心に -
	論文：石に刻り込まれた書 - 山田正平の制作の跡を辿って - 作品：漢字の書
美術教育コース	アニミズム的な「植物」の絵画表現
	直筆覚書にみる福永晴帆の人物像とその背景（作品）日本画
	素朴なものづくり - 手の先にあるもの -
	書道教育における協同学習の導入とその効果に関する研究
	論文：石に刻り込まれた書 - 山田正平の制作の跡を辿って - 作品：漢字の書

美術教育コース	美術教育における工芸と実践
	デザインにおける装飾の研究
	梧竹作品の教材としての価値 - 70 歳代までの作品研究を基盤として -
	写真を用いた絵画表現についての研究 ( 作品 ) 油彩画
保健体育コース	中学生の体力向上に影響を及ぼす要因論的研究
	ソフトボールの授業における注意の向け方がバッティング技術の習得に及ぼす影響
	ジャパンラグビートップリーグ観戦者市場のマーケティング分析に関する実証的研究
	中学校・高等学校指導者に関するクールダウンの実態調査
	身体感覚と心理的側面との関係 - 指導言語に着目して -
技術教育コース	タブレット端末を用いた Web コンテンツの教材化に関する研究
	膝関節付近近似皮膚の動態解析
	スギ圧密材および込栓を用いたほぞ差しによる柱 - 土台接合部の引張強度性能
	AE を用いた集成材の全数検査に関する研究 - ヒノキ集成材の接着積層部における評価 -
	福岡県内における中学校技術科生物育成領域の動向とそれに対応した教材に関する研究
家政教育コース	高等学校家庭科被服製作教材の開発 - 電子黒板を活用して -
	家庭における夫の食事作りと家族との関係を踏まえた調理能力向上の取り組み
	洗濯研究のための酸化鉄人工汚染布作製について
	家庭科の専門高校における保育内容の研究 - 保育園児とのふれあい学習を中心に -
	食品製造の舞台裏とその問題点に焦点をあてた大学生を対象としたフードソテラシー育成の試み
英語教育コース	A Study of Language Learning Styles and Strategies of Japanese EFL University Students
	Teachers ' awareness and consideration of teaching culture in English Language education in Japan
	The Effects of Using Captions and Subtitles on English Language Learning Using DVD Materials
	A Study of Language Awareness as the Foundation of English Activity in Elementary School
理科教育 ( 専攻 )	アブラナ科植物ファストプランツ Brassica rapa の変異原因遺伝子と教材化に関する研究

(3)講義、演習等の授業形態

教育学研究科における教育目的に基づき、コースツリーにより、講義、演習、実習等の授業形態の組み合わせやバランスを考慮して、体系的に授業科目（講義、演習、実習等）を配置している。授業科目を計画的に受講することを経て、研究指導のための2年次必修科目「課題研究」を行い、修士論文を作成するように体系的に計画され、実施している。

【資料 1-3-F】平成 25 年度開講科目数

科目 種別	教育	基	学	関	教	関	教	関	特	に	発	広	課	合
	科学	礎	校	する	科	する	科	する	別	に	展	域	題	計
	科目	科目	教育	科目	教育	科目	科目	科目	支援	関	科目	発	研究	
講義	10		33	41	129			13		5	0	0	231	
演習	4		28	34	130			7		15	8	19	245	
実習	0		2	0	0			0		4	0	0	6	
計	14		63	75	259			20		24	8	19	482	

(4)単位の実質化

単位の実質化については、1 授業科目 15 週授業日の確保と試験日の確保を確実にしている。また、各専攻・コースのガイダンスや授業において学生に対して自学自習の必要性を説明するとともに、シラバスに「授業時間外の学習について」の欄を設け、学生の注意を喚起している。また、オフィスアワーについても、シラバス及び授業において周知し、大学院学生の修学、研究遂行、修士論文作成に有効に活用している。

【別添資料 1-3-3】平成 24 年度大学院授業日

以上のことから、評価基準 3 に関わる取り組み等を着実に推進していると判断している。

【評価基準4】: 各学年や修了時等において学生が身に付けるべき知識・技能等について、単位修得、進級、修了、修了後の進路の状況等から判断して、学習成果が上がっている。

(1) 単位修得、進級、修了の状況

各学年や修了時等において学生が身に付けるべき知識・技能等については、前述した各コースの教育目的に定めているが、より明確なものとなるよう、ディプロマポリシー（学位授与方針）について、平成25年度の策定に向け、現在、審議を行っている。

(修了の状況)

過去3年間の修了率は、平成22年度は90.4%、平成23年度は86.2%、平成24年度は100%と、高い水準で推移している。

【資料1-4-A】大学院教育科学専攻の修了率の推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
A. 修了者数	66人	75人	73人
B. 修了延期者数	7人	12人	0人
C. 修了年限不足者数	2人	2人	0人
修了率 A / (A+B) (%)	90.4%	86.2%	100%

(単位取得状況)

単位修得率は、平成22年度は94.7%、平成23年度は94.5%、平成24年度は97.9%と、高水準で推移している。

【資料1-4-B】大学院教育科学専攻の単位修得率の推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
授業科目数	253	253	253
受講者数	1,209	1,157	1,119
単位修得数	1,145	1,093	1,096
単位非修得数	64	64	23
単位修得率	94.7%	94.5%	97.9%

(成績評価結果)

授業科目の成績評価については、平成24年度の実績で、秀が全科目の延べ受講者数の72.1%、優が22.4%、(秀・優合計94.5%)である。平成23年度は、秀が68.8%、優が21%、(秀・優合計89.8%)であり、平成22年度は秀が64.5%、優が27%、(秀・優合計91.5%)である。



【資料 1-4-C】大学院教育科学専攻の成績評価結果分布

年度	授業科目数	受講者数	成績評価結果分布							
			秀	優	良	可	不可	未受験	無資格	合計
平成 22 年度	386	1636	1056	442	57	11	8	22	40	1636
			64.5%	27%	3.5%	0.7%	0.5%	1.4%	2.4%	100%
平成 23 年度	395	1583	1089	333	67	11	3	11	69	1583
			68.8%	21%	4.2%	0.7%	0.2%	0.7%	4.4%	100%
平成 24 年度	377	1467	1058	328	36	11	6	11	17	1467
			72.1%	22.4%	2.5%	0.7%	0.4%	0.7%	1.2%	100%

( 修士論文の成績評価結果 )

修士論文の成績評価については、平成 24 年度の実績で、A 評価 86.3%、B 評価 13.7% ( A ・ B 合計 100% ) である。平成 23 年度は、A 評価 81.3%、B 評価 16% ( A ・ B 合計 97.3% ) である。

【資料 1-4-D】大学院教育科学専攻の修士論文の成績評価結果分布

	成績評価結果分布			
	A	B	C	D
平成 22 年度	53	11	2	0
	80.3%	16.7%	3%	0%
平成 23 年度	61	12	2	0
	81.3%	16%	2.7%	0%
平成 24 年度	63	10	0	0
	86.3%	13.7%	0%	0%

( 最終試験の成績評価結果 )

最終試験の成績評価については、平成 24 年度の実績で、A 評価 87.7%、B 評価 11% ( A ・ B 合計 98.7% ) である。平成 23 年度は、A 評価 80%、B 評価 18.7% ( A ・ B 合計 98.7% ) である。

【資料 1-4-E】大学院教育科学専攻の最終試験の成績評価結果分布

	成績評価結果分布			
	A	B	C	D
平成 22 年度	54	10	2	0
	81.8%	15.2%	3%	0%
平成 23 年度	60	14	1	0
	80%	18.7%	1.3%	0%
平成 24 年度	64	8	1	0
	87.7%	11%	1.3%	0%



(2)学習成果

修士論文については、各担当教員による指導の下、学会発表及び学会誌等への論文掲載を行っているほか、作品・演奏等においても各種の受賞・入賞を果たしている状況から、学習成果が上がっていると判断できる。

【資料 1-4-F】修士論文の成果の学会発表の事例（平成 22～24 年度）

発表年度	コース名	学会名	内容
平成 22 年度	特別支援教育コース	日本特別ニーズ教育学会	特別支援学校における看護師の職務の実態 1
		一般社団法人 日本 LD 学会	PASS 評定尺度による認知処理過程の評価に関する研究
	数学教育コース	九州数学教育学会	中学校数学における問題解決の授業改善に関する研究 - 新学習指導要領における「D 資料の活用」を中心に -
	理科教育コース	日本理科教育学会全国大会	小学校における物質概念の構成に関する研究 「物質の三態変化」を中心に
		日本理科教育学会全国大会	空気の体積変化に関する教材の検討 - アフォーダンスの視点を通して -
	技術教育コース	日本産業技術教育学会第 53 回全国大会	生物育成に関するバイオテクノロジー教材の開発 - 草丈伸長 QTL をもつ近似同質遺伝子イネ系統の作出とそれを用いた授業実践 -
		日本産業技術教育学会第 23 回九州支部大会	時効硬化型アルミニウム合金におけるピッカース硬度と耐力の関係
		日本産業技術教育学会第 53 回全国大会	学生技術教育コーディネーターシステムの試み～地域中学校における情報教育実施環境の調査～
	英語教育コース	日本コミュニケーション学会九州支部大会	英語教育におけるライティングのコミュニケーション学的考察
		2010 年度日本語教育学会秋季大会	ことばは教えられるか 日本語教育における教室実践を問い直す
平成 23 年度	特別支援教育コース	日本特殊教育学会	両耳分離聴に困難を示す児童への D I I D を用いた聴覚訓練の効果
		日本特別ニーズ教育学会	特別支援学校における看護師の専門性
	理科教育コース	日本植物分類学会	ノグルミ(クルミ科)の異型異熟性と送粉者
	技術教育コース	日本産業技術教育学会第 54 回全国大会	ロボコンを想定した中学校技術分野の授業計画について
		日本産業技術教育学会第 24 回九州支部大会	神経細胞の詳細機能に基づく電子回路モデルと電気分野への教材化に関する研究
		日本産業技術教育学会第 24 回九州支部大会	生物育成に関する新しい教材の開発 第 3 報 イネの穂数増加に関連するバイオテクノロジー教材の提案
日本木材加工技術協会第 29 回年次大会	スギ圧縮ダボを用いた千鳥配置接合による木製平パレットの製造に関する研究		
平成 24 年度	特別支援教育コース	日本特別ニーズ教育学会	特別支援学校における医療的ケア実施体制と保護者負担の改善 - 看護師配置後の保護者付き添いを中心に -
		日本言語聴覚学会	吃音児の吃音に起因するストレスへのコーピングに関する検討
	数学教育コース	統計数理研究所 共同研究集会	一般化されたフェラーのゲームの極限定理について

	音楽教育 コース	日本音楽教育学会 九州地区 例会	音楽の授業で形成される音楽に対する苦手意識の研究 - 学習性無力感の理論に基づく苦手意識形成要因の分析 -
	美術教育 コース	大学美術教育学会 大分大会	自然素材における同化
		大学美術教育学会 大分大会	祈る身体 パフォーマンスアートによる表現の研究
		大学美術教育学会 大分大会	紙による立体造形の可能性についての研究
		全国書写書道教育学会	書道教育における協同学習の有効性と導入方法に関する 研究 お互いに高め合う鑑賞活動
	技術教育 コース	日本産業技術教育学会第55回 全国大会	栽培教材「ペットボトル稲」の教育的効果の検証 -小学校の「総合的な学習の時間」において -
		日本産業技術教育学会第55回 全国大会	動画コンテンツの教材化にむけた調査について
		日本産業技術教育学会第25回 九州支部大会	タブレット端末を用いた Flash コンテツの教材化につい て
		第19回日本木材学会九州支部 大会	AEを用いた集成材の全数検査に関する研究 - ヒノキラミナにおける接着積層部の評価 -
		日本産業技術教育学会第25回 九州支部大会	中学校で使用可能な金属材料用引張試験機の作製と授業 実践

【資料 1-4-G】修士論文について関係学会誌などに成果を発表した事例（平成 22～24 年度）

発表年度	コース名	学会誌等	内容
平成 22 年度	障害児教育 コース	特殊教育学研究	吃音児のコミュニケーション態度と吃音重症度、吃音の自 意識、指導方法との関係についての検討 Communication Attitude Test を用いて
	理科教育 コース	福岡教育大学教育実践セン ター教育実践研究	教材のアフォーダンスと概念形成に関する研究
		福岡教育大学教育実践セン ター教育実践研究	小学校における物質概念の構成に関する研究
	技術教育 コース	日本産業技術教育学会九州 支部論文集	トタン板を用いた各種接合の引張強度
日本産業技術教育学会九州 支部論文集		中学校で使用可能な金属材料の簡易抗折試験機の開発と 授業実践	
日本産業技術教育学会九州 支部論文集		携帯電話による不正行為防止に配慮した出欠管理システ ムの開発と評価	
福岡教育大学教育実践セン ター教育実践研究		「第一回教材・作品コンテスト」におけるものづくり育 成の効果	
平成 23 年度	数学教育 コース	Rev. Roumaine Math. Pures Appl.	H-regularity of functions with values in Cayley algebra based on a generalized axially symmetric potential theory operator.
	技術教育 コース	日本産業技術教育学会九州 支部論文集	アルミニウム板を用いた各種接合の引張強度
		日本産業技術教育学会九州 支部論文集	学生による教育コーディネーターシステムの試み - 地 域中学校技術科における情報教育実施状況 -
		日本産業技術教育学会九州 支部論文集	プログラミング学習教材の性能評価
	Proceedings of the Sixth Joint Seminar 2011 of China-Korea-Japan on Wood	Production of Wooden Flat Pallet by Staggered Connections Using Sugi Compressed-dowel	

		Quality and Utilization of Domestic Species,	
	技術教育コース	Journal of the Faculty of Agriculture Kyushu University	Studies on Manufacturing of Wooden Flat Pallet by Staggered Connection Using Sugi Compressed-dowel and its Process
平成 24 年度	教育臨床心理学コース	福岡教育大学心理相談研究	高校中退者の心理的居場所感の変化プロセスに関する研究
		福岡教育大学紀要	幼児期の障害のある子どもをもつ母親のメンタルヘルスに関する研究
	特別支援教育コース	福岡教育大学附属特別支援教育センター紀要	医療的ケア実施体制を支える看護師の専門性と研修のあり方 - 九州・沖縄地区特別支援学校看護師調査より -
	数学教育コース	Journal of Applied Probability	Limit theorems for a generalized Feller game
	美術教育コース	全国書写書道教育学会	書道教育における協同学習の有効性と導入方法に関する研究 お互いに高め合う鑑賞活動
		福岡教育大学紀要	福岡教育大学書道科所蔵書跡目録解題(二) 拓本類(2)
		全九州大学書写書道教育学会	山田正平の作品考察 篆刻・刻字作品を中心として 中林梧竹作品の教材化への検証
	技術教育コース	日本産業技術教育学会九州支部論文集	動画編集の教材化をねらいとした動画の諸特性について
		日本産業技術教育学会九州支部論文集	新しい鑄造教材用低融点合金の開発
		日本産業技術教育学会九州支部論文集	87%Sn-13%Zn 合金を用いた鑄造に関する授業実践
福岡教育大学教育実践センター教育実践研究		Flash コンテンツの教材化とタブレット型端末での活用を想定した調査	

【資料 1-4-H】各種受賞・入賞一覧（平成 22～24 年度）

年度	コース	受賞・入賞
平成 22 年度	技術教育コース	日本理科教育学会九州支部発表論文賞
		日本理科教育学会九州支部発表論文賞
		日本産業技術教育学会 第 23 回九州支部大会、学生優秀発表賞(学長表彰)
平成 23 年度	技術教育コース	日本産業技術教育学会 第 24 回九州支部大会、学生優秀発表賞(学長表彰)
		日本産業技術教育学会九州支部論文賞(学長表彰)
平成 24 年度	音楽教育コース	第 31 回飯塚新人音楽コンクール(ピアノ部門)、本選入選
		第 22 回日本クラシック音楽コンクール(ピアノ部門)福岡大会を通過し、全国大会入選
		第 22 回日本クラシック音楽コンクール(声楽部門)福岡地区を通過し、全国大会入選
		第 66 回全日本学生音楽コンクール(声楽部門)北九州大会第 1 位・全国大会入選(学長表彰)
	美術教育コース	第 68 回福岡県美術展覧会彫刻部門会員の部、富永朝堂賞
		第 17 回全日本高校・大学書道展、優秀賞
		第 68 回福岡県美術展覧会、入選
技術教育コース	日本木材学会九州支部黎明研究者賞受賞	
	日本産業技術教育学会 第 25 回九州支部大会、学生優秀発表賞(学長表彰)	

(3)大学院学生の研究発表の支援

本学大学院学生の学会発表の機会を拡充するため、平成 25 年度より大学院学生の学会発表の交通費を支援することとした。このことにより、大学院学生の学会発表におけるプレゼンテーション能力の向上及び研究能力の向上を図っている。

【別添資料 1-4-1】福岡教育大学大学院学生の学会発表交通費補助金の支給について(重要通知)

(4)修了後の進路状況

進路状況に関して、教員就職者（教諭、常勤講師、非常勤講師。外国人留学生及び現職教員を除く。）については、平成 22 年度は 54%、平成 23 年度は 64%、平成 24 年度は 56%である。教員就職者と合わせて、学習支援・福祉等に就職した者、企業等に就職した者、公務員就職者、進学者の合計（現職教員を除く。）は、平成 22 年度は 78%、平成 23 年度は 85%、平成 24 年度は 83%である。

現在、大学改革実行プランに基づく、「ミッションの再定義」により、本学の修士課程は、修了者（現職教員を除く）の教員就職率は、現状は 64%であるが、第 2 期中期目標期間において、学部 4 年生からの大学院授業科目の一部履修を可能にする制度を導入するなどの改革を行い、第 3 期中期目標期間中は 85%を確保することとしている。

【資料 1-4-1】教育科学専攻の修了後の進路状況（外国人留学生、現職教員を除く）

	教員		学習支援 福祉等		公務員		企業等		進学者		その他		修了者 合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
平成 22 年度	29	54	6	11	3	6	3	5	1	2	12	22	54	100
平成 23 年度	38	64	8	14	0	0	3	5	1	2	9	15	59	100
平成 24 年度	32	56	8	11	1	1	6	11	0	0	10	17	57	100

【資料 1-4-J】平成 24 年度 修士課程修了者の進路先（外国人留学生、現職教員を除く）

	進路先
教員	正規採用 11 人（小学校 4 人、中学校 5 人、高等学校 1 人、特別支援学校 1 人） 臨時的任用 21 人（小学校 3 人、中学校 8 人、高等学校 10 名）
学習支援 福祉等	社会福祉法人 ま心苑、NPO アジア太平洋こども会議・イン福岡事務局 社会福祉法人北九州市福祉事業団（三郎丸児童館） 国立病院機構九州ブロック肥前精神医療センター 社会福祉法人北九州市福祉事業団、熊本県精神保健福祉センター
公務員	福岡市立背振少年自然の家
企業等	(株)東急エージェンシー（広告代理店）、ホテル日航福岡 チャペル、(株)フェイスグループ、新日本非破壊検査(株)、有限会社ハートリンク、イオン九州(株)
その他	【教員採用試験準備中】5 人 【就職活動中】 1 人 【アルバイト】 1 人 【不明】 3 人

以上のことから、評価基準 4 に関わる取り組み等を着実に推進していると判断している。

## 評価項目2：使命・役割を踏まえた附属学校の在り方とその成果

### 評価項目2 自己評価及びその判断理由

(自己評価)

それぞれの基準を満たしており、期待される水準にある。

(判断理由)

【評価基準1】：地域の教育界のニーズを把握する体制が確立されているとともに、学校現場が抱える様々な教育課題について、実験的・先導的に取り組み、その成果を地域に還元している。

#### (1)附属学校の概要

本学には、福岡市、北九州市の政令都市と中核市である久留米市に、それぞれ附属小学校と附属中学校があり、大学と併設して附属幼稚園がある。また、福岡小学校には特別支援学級と帰国子女学級があり、福岡中学校には特別支援学級がある。

各附属学校の幼児・児童・生徒数、教職員数（平成25年5月1日現在）は次のとおりである。

#### 【資料2-1-A】幼児数、児童数、生徒数、教職員数

##### 附属幼稚園幼児数

		3歳児	4歳児	5歳児	合計
幼稚園	定員(人)	20	35	35	90
	幼児数(人)	20	23	35	78

##### 附属小学校児童数

		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	特別支援学級	帰国子女学級	合計
各学年等の定員(人)		70	70	80	80	80	80	24	45	
福岡小学校	学級数	2	2	2	2	2	2	3	3	18
	児童数(人)	70	69	77	80	80	79	17	12	484
小倉小学校	学級数	3	2	2	2	2	2	-	-	13
	児童数(人)	70	69	81	79	81	79	-	-	459
久留米小学校	学級数	2	2	2	2	2	2	-	-	12
	児童数(人)	70	70	80	79	80	80	-	-	459
合計	学級数	7	6	6	6	6	6	3	3	43
	児童数(人)	210	208	238	238	241	238	17	12	1,402

附属中学校生徒数

		1 学年	2 学年	3 学年	特別支援学級	合計
		各学年等の定員（人）				
福岡中学校	学級数	3	3	3	3	12
	生徒数（人）	120	122	122	17	381
小倉中学校	学級数	3	3	3	-	9
	生徒数（人）	121	120	119	-	360
久留米中学校	学級数	3	3	3	-	9
	生徒数（人）	120	118	121	-	359
合計	学級数	9	9	9	3	30
	生徒数（人）	361	360	362	17	1,100

教職員数

	校長・園長	副校長・副園長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	長期研修員	講師	小計	事務職員	技術職員	技能職員・労務職員	計
福岡小学校（人）	1	1	-	1	22	1	1	4	3	34	6(1)	2	4	77(1)
福岡中学校（人）	1	1	-	1	18	1	-	4	5	31				
小倉小学校（人）	1	1	1	-	14	1	1	4	2	25	5	2	3	60
小倉中学校（人）	1	1	-	1	14	1	-	4	3	25				
久留米小学校（人）	1	1	-	1	14	1	1	4	1	24	5	1	3	59
久留米中学校（人）	1	1	-	1	14	1	-	4	4	26				
幼稚園（人）	1	1	-	-	3	1	-	-	3	9	1	-	-	10
合計（人）	7	7	1	5	99	7	3	24	21	174	17(1)	5	10	206(1)

（ ）は、代替で内数

【別添資料 2-1-1】福岡教育大学附属学校概要 2013



## (2)地域の教育界のニーズを把握する体制

国立大学法人の附属学校に課せられている使命である実験的・先導的取組を実施し、地域教育の「拠点校」あるいは「モデル校」として地域教育の向上に資することを目的として、福岡地区・小倉地区・久留米地区に福岡教育大学と県教育事務所・市教育委員会・市教育センター等で附属学校地域連絡協議会を設置し、地域の教育課題やその他の諸問題について協議を行っている。

各地区附属学校地域連絡協議会は協議会の議長に附属学校部長を充て、大学・附属学校・教育委員会等の組織から選出された委員で構成し、附属学校教員の人事交流及び人材育成に関すること 長期派遣研修教員に関すること 地域教員の資質や能力の向上に関すること

附属学校が推進する教育研究に関することなどについて協議を行い、各地区教育事務所等からのニーズへ応えるようにしている。

### 【資料 2-1-B】各地区教育事務所等からのニーズ等（各地区協議会の議事概要を抜粋）

#### 福岡地区：第 1 回（H24.5.14） 第 2 回（H25.1.22）

##### （第 1 回）

- ・福岡教育事務所から、「附属教員の研修状況や出身地区に戻った際の情報交換の場の設定」について提案があり、福岡市教委及び各教育事務所での状況について意見交換があった。
- ・福岡教育事務所から「附属の授業づくり研究会と事務所研修会の共同開催」について提案があり、共同開催の可能性に関しての意見交換があり、附属小においては、既に県教育センターと年 2 回共同開催している実績がある旨の説明があった。

##### （第 2 回）

- ・前回協議会において要望のあった研修会等の附属学校との共同開催について、既に来年度に向けて研修会を附属小・中学校と共同で開催する方向で準備が進められている旨の説明があった。
- ・附属学校を「研修の場」として活用することについて今後は意見交換を行うことが確認された。
- ・附属学校での校内研修の案内を各教育事務所や教育委員会宛に照会願いたい旨の要望があった。
- ・附属学校において行われている校内研修について参観出来る体制整備を行っていただきたい旨の要望があった。
- ・大学側（附属学校）として校内研修の受け入れ体制について検討することが確認された。
- ・附属幼稚園と附属小学校においても「幼・小連携の研究」を今後進め、研究成果を公開していく旨の説明があった。

#### 小倉地区：第 1 回（H24.4.29） 第 2 回（H24.11.21）

- ・小中連携のモデルプランの作成の要望があった。（第 1 回）
- ・教育事務所から、附属学校における種々の指導において、教科指導と生徒指導に関してバランスの取れた指導を願いたい旨の要望があった。（第 2 回）

#### 久留米地区：第 1 回（H24.6.7） 第 2 回（H24.12.14）

- ・委員から、附属学校における種々の指導において、教科指導だけでなく、学校経営力向上の指導を願いたい旨の要望があった。（第 2 回）
- ・小学校から、来年度 6 月に開催予定をしている研究発表会は、公立の若手教員・講師向けの授業の進め方等を重点に行う予定であるので、若手の研修の一環として多くの参加を願いたい旨の要望があった。（第 2 回）
- ・大学との共同研究だけでなく、久留米市の学校との共同研究、教材開発等も検討していただきたい旨の要望があった。（第 2 回）

### 【別添資料 2-1-2】各地区附属学校地域連絡協議会申し合わせ

### 【別添資料 2-1-3】各地区附属学校地域連絡協議会議事概要

(3)実験的・先導的な取り組み

附属学校では、文部科学省の委嘱研究等を受け、研究開発学校の指定校として公立学校では実施しにくい調査研究や学習指導要領の枠を超えた実験的先導的な研究に取り組んでいる。

また、附属学校は、科学研究費補助金や学長裁量経費である「福岡教育大学研究推進支援プロジェクト経費」に基づく研究にも取り組んでいる。

【資料 2-1-C】文部科学省研究開発委託事業等の実績

事業名	学校名	課 題	期 間
教育課程 特例指定校	福岡小学校	・各教科・領域での「チームで協働する力」に関する 目標・内容の新設及び新教科の設置や時数の見直し ・新教科「英会話科」の新設 ・道徳・学級活動・総合的な学習等を1つに統合し、 新領域「生き方(仮)」を新設	平成 25～29 年度
教育研究開発事業	久留米小学校	各教科等に生かすことのできる「情報活用力」の基礎 を養うために、新教科「情報科」を新設し、指導内容 や指導方法について明らかにする研究開発	平成 24～26 年度
教育研究開発事業	福岡中学校	豊かに生きるためのリテラシー獲得をめざした教育 課程に関する研究開発	平成 20～23 年度
英語教育改善のた めの調査研究事業	福岡小学校 福岡中学校	英語教育改善のための調査研究事業として「外国語活 動型」の調査研究	平成 21 年度

【別添資料 2-1-4】福岡小学校及び久留米小学校 教育課程特例校指定書及び事業実施計画書

【別添資料 2-1-5】福岡中学校教育研究開発事業指定書及び事業報告書（概要）

【別添資料 2-1-6】福岡小・中学校調査研究事業指定書及び事業実施報告書（概要）

【資料 2-1-D】科学研究費補助金交付状況

獲得年度	研 究 課 題 名	学校名
平成 22 年度	言語活動を充実させる理科学習指導法の研究 数量関係を読み取る力を育む数学科学習指導法の研究	久留米中学校
平成 23 年度	発展・転移を促す学びをつくり出す保健体育科（体育分野） 学習指導法の研究	久留米中学校
平成 25 年度	タブレットを効果的に活用し、鑑賞したことを表現に発展さ せる図画工作科学習指導	久留米小学校

【資料 2-1-E】研究推進支援プロジェクト経費（学長裁量経費）採択状況

採択年度	研 究 課 題 名	学校名
平成 21・22 年度	知的に考える子どもを育てる教育活動の創造の研究	久留米小学校
平成 23・24 年度	新教科「情報科」新設における指導内容と指導方法の研究 開発	久留米小学校



(4)成果の地域への還元

研究成果については、毎年研究発表会を開催し、授業公開や研究紀要の発行を通じて、公表している。研究発表会への本学での参加人数は、次の通りであり、本学の大学教員はもとより、九州地区や中国・四国地区からも多くの参加者があり、九州地区の教員養成系大学の附属学校での研究発表会参加人数に比べても本学の参加人数は多い状況にある。

また、研究内容についても平成 24 年度附属小倉小学校でのアンケート調査にみられるように高い評価を得ている。

【資料 2-1-F】九州地区教員養成大学附属学校の研究発表会参加状況

		平成 22 年度（人）	平成 23 年度（人）	平成 24 年度（人）
福岡 教育 大学	福岡小学校	897	1,150	1,450
	小倉小学校	1,042	948	922
	久留米小学校	1,163	1,263	1,413
	福岡中学校	211	209	201
	小倉中学校	402	280	310
	久留米中学校	420	419	467
	幼稚園	260	274	222
	合計	4,395	4,543	4,985
A 大学	附属小学校	485	610	344
	附属中学校	233	301	457
	附属幼稚園	120	98	180
	合計	838	1,009	981
B 大学	附属小学校	不明	306	296
	附属中学校	188	189	103
	附属幼稚園			
	合計	188	495	399
C 大学	附属小学校	479	345	234
	附属中学校	287	276	370
	附属幼稚園	271	199	227
	合計	1,037	820	831
D 大学	附属小学校	1,050	1,200	1,100
	附属中学校	360	135	332
	附属幼稚園	157	180	206
	合計	1,567	1,515	1,638
E 大学	附属小学校	269	558	372
	附属中学校	279	350	244
	附属幼稚園	134	135	116
	合計	682	1,043	732

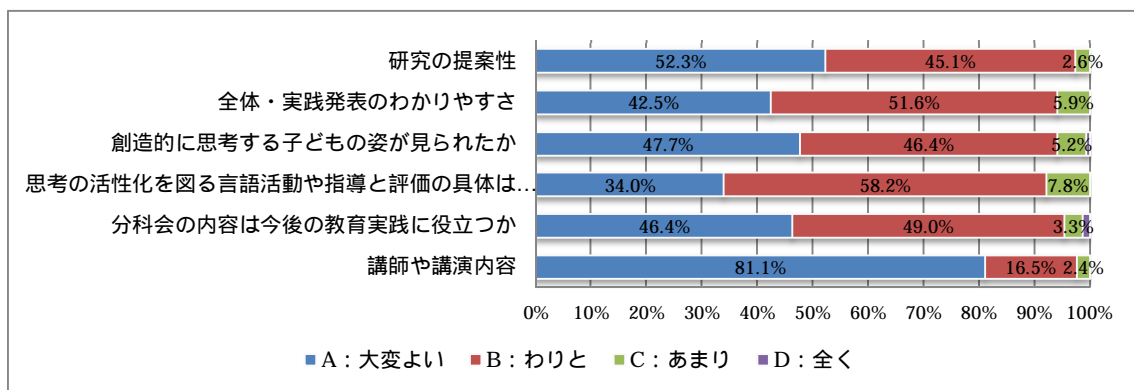
F 大 学	附属小学校	745	752	772
	附属中学校	546	550	598
	附属幼稚園			
	合計	1,291	1,302	1,370
G 大 学	附属小学校	248	359	360
	附属中学校	136	241	185
	附属幼稚園			
	合計	384	600	545

【資料 2-1-G】平成 24 年度研究発表会各研究テーマ等一覧

学校名	研究発表会テーマ等
福岡小学校	「開かれた個」を育てる学習指導の創造 - チームを活かした学習過程の工夫 -
小倉小学校	「創造的に思考する子どもを育てる授業」 - 思考の誘発・連続・活性化から教科本質のねらいへ導く「指導と評価」 -
久留米小学校	「協同的学び合い」をつくる言語活動 - 教科の特質をふまえた授業づくり -
福岡中学校	「豊かに生きるためのリテラシー獲得をめざして」 - 教科を学ぶ意味や価値を問い直す『活用型の授業』デザイン -
小倉中学校	「自ら創造的に学ぶ力の育成」 - 「自己調整学習」に基づいた循環的な学習プロセスの構築を通して -
久留米中学校	「知を活かす力をはぐくむ学習活動の創造」 - 要約・関連付け・自覚化を位置づけた学習過程を通して -
幼稚園	大学教員の幼稚園教諭との連携による保育の創造 - 言葉で人とつながり合う幼児を育てる -

【資料 2-1-H】平成 24 年度 研究発表会 アンケート集計結果（附属小倉小学校）（抜粋）

2 研究について



以上のことから、評価基準 1 に関わる取組み等を着実に推進していると判断している。

【評価基準2】大学の教育に関する研究に組織的に協力する体制が確立され、大学と附属学校が連携して、附属学校を活用する研究計画の立案・実践が行われている。

(1)組織的に協力する体制

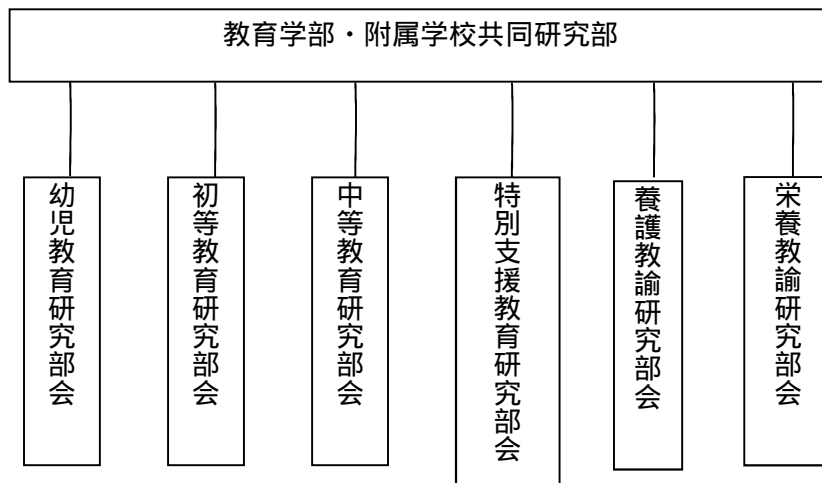
大学と附属学校が協働した研究活動を推進するために「福岡教育大学教育学部・附属学校共同研究部」を組織し、幼児及び児童生徒の保育や教育に関する理論的研究、実験及び実証のための共同研究を行っている。

教育学部・附属学校共同研究部に、幼児教育研究部会、初等教育研究部会、中等教育研究部会、特別支援教育研究部会、養護教諭研究部会、栄養教諭研究部会を置き、各研究部会は大学教員と附属学校教員により構成している。

教育学部・附属学校共同研究部は、次の事項等を審議している。

- ・ 研究部会における研究主題（開催日程及びテーマ等）の審議・承認を行っている。
- ・ 研究発表会の参加費の金額を決定すると共に研究発表会に関する予算を大学において管理し、必要経費を配分している。
- ・ 研究事項の出版並びに発表会の主催等の協議を行い、共同研究の推進及び研究部間の調整を行っている。

【資料 2-2-A】教育学部・附属学校共同研究部各研究部会組織図



【別添資料 2-2-1】福岡教育大学教育学部・附属学校共同研究規程

【別添資料 2-2-2】各研究部会議議事概要

## (2)研究計画の立案・実践

附属学校を活用した研究計画の立案・実践については、共同研究部会議及び各研究部会において検討を行い、その実践を各附属学校において行っている。

大学・三附属中学校共同研究は3年に1回開催されている大学と三附属中学校との共同研究であり、組織的に教科研究として発足したのは昭和43年（1968年）の1月で、翌年の昭和44年（1969年）6月に第1回研究発表会が開催された。この間43年の長期間にわたって大学と附属学校が共同研究の成果を研究紀要としてまとめ、「研究紀要16号」を平成23年度に発刊させ、その成果を広く県内外に発信してきたところである。

大学・三附属中学校共同研究の特色は、理論と実践との相互検証をくり返しながらかな教科等研究を追求することであり、附属学校をもつ大学だからこそ日常的な研究交流が可能であり、メリットを最大限生かすことは、大学にとっても附属学校にとっても、互いの教育的価値を認識する上において、大変に重要なことである。

また、各附属学校が取り組んでいる研究については、テーマや開催日時等を各研究部会や共同研究部会において審議し、承認を得た上で、大学教員の児童に対する助言を得ながら研究を行い、大学経費による研究発表会を実施するとともに研究紀要を発刊し、教育現場への還元を行っている。

さらに、初等教育研究部会、幼児教育研究部会及び特別支援教育研究部会も1年間の研究成果を研究紀要や報告書としてとりまとめ、研究発表会を通じて教育現場への還元を行っている。

そして、大学教員が附属学校を活用した実践研究として、附属学校において自らの教育研究の改革を企図した授業実践を行い、その成果を報告書としてとりまとめている。

### 【資料2-2-B】大学と附属学校との研究連携の流れ

各附属学校において開催日程・研究テーマ等企画・立案

各研究部会において開催日程・研究テーマ等を審議・承認

共同研究部会において開催日程・研究テーマ等を審議・承認

各附属学校において実践研究及び大学教員からの理論の提言

各附属学校において大学主催による研究発表会の実施及び研究紀要の発刊

【資料 2-2-C】平成 23 年度研究紀要 第 16 号 福岡教育大学・三附属中学校 【概要】

教科	指導内容
国語科	ショート学習で実践的国語学力を育てる
社会科	社会をつくる社会科学習指導法の研究 ～「対話」でわかりをつくる社会科教師処遇～
数学科	数学のよさを実感させる数学科学習指導法の研究 ～数学的活動のさらなる充実をとおして～
理科	科学概念の本質的理解を目指した理科授業の構想 ～「ことば」の適用範囲に着目して～
音楽科	音楽文化の理解を深める音楽科学習指導法の研究 ～我が国や郷土の伝統音楽を教材として～
美術科	模写の再評価と美術科教育の改善
保健体育科	発達段階に応じた学習内容の定着を図る保健体育科学習のあり方
技術家庭科 技術分野	技術評価を意識した技術・ものづくり教育
技術家庭科 技術分野	生活活用力を育む家庭科授業の研究 ～状況に応じた判断をする場の設定～
英語科	リーディング能力を育てる英語科学習指導法の研究
特別支援教育	プランを活用して「問題」を解決する力の向上をめざして～生徒の方略に着目した学習活動をとおして～
保健室経営	子どもの健康な心をはぐくむために養護教諭としてできること

【資料 2-2-D】平成 24 年度共同研究等概要

平成 24 年度幼児教育研究紀要 第 19 号 【概要】
「言葉で人とつながり合う幼児を育てる」 ～見取りの道しるべづくりとその活用～
平成 24 年度特別支援教育部（小学校）共同研究のまとめ 【概要】
「生活を豊かにする子どもを育む学習指導の創造」～個別の指導計画をもとにした課題別グループの編制～
平成 24 年度特別支援教育部（中学校）共同研究のまとめ【概要】
「よりよく人と関わることができる生徒の育成」～共同して取り組む課題と場面設定を通して～
平成 24 年度報告書「附属学校における教育実習生健康調査」【概要】
福岡教育大学附属学校（園）養護教諭研究部会及び教育実習生のメンタルヘルス支援事業による調査報告
平成 24 年度初等教育研究会報告集【概要】
全体会テーマ：これからの三附属小学校に求めること
各教科等分科会統一テーマ
・教科における思考力・判断力・表現力を高める指導と評価はどうあるべきか

【資料 2-2-E】平成 24 年度大学教員と附属学校との授業実践研究実施一覧

(1) 附属福岡小学校

化石を題材に自然の事物・現象についての実感をともなった理解を図る(その3)

指導学年 小学校6年生 実施教科:理科 理科教育講座 鈴木 清一  
伝えよう日本の音楽 - 箏を弾いて聴いてみよう -

指導学年 小学校6年生 実施教科:音楽 音楽教育講座 山本 百合子  
モビールの楽しみ

指導学年 小学校5年生 実施教科:美術 美術教育講座 阿部 守  
「工夫しよう 暖かな生活」における実験設定の試み

- 家庭科における「衣服の着方」への理解をより深めるために -

指導学年 小学校6年生 実施教科:家庭 家政教育講座 堀 雅子  
Introducing Fukuoka to international guests:

A 6th-year foreign language activities class at the Attached Fukuoka Elementary School

指導学年 小学校6年生 実施教科:外国語活動 英語教育講座 オオガ ボールドウィン  
活動・体験と言語活動の関連について

指導学年 小学校2年生 実施教科:生活 生活総合教育講座 津川 裕

(2) 附属久留米小学校

数学的な考え方を育てる授業づくり

指導学年 小学校4年生 実施教科:算数 数学教育講座 飯田 慎司

「パソコンによる“目習い”の書写授業」

指導学年 小学校5年生 実施教科:国語 美術教育講座 和田 圭壮  
ソーシャル・スキル教育の実践的報告 - 注意するスキルと謝るスキル -

指導学年 小学校4年生 実施教科:特別活動 教育心理学講座 黒川 雅幸

(3) 附属小倉中学校

「行書を書いて確かめよう」

指導学年 中学校2年生 実施教科:国語 美術教育講座 和田 圭壮

- 中学3年生・土の中の生物の働き -

指導学年 中学校3年生 実施教科:理科 理科教育講座 唐澤 重考

(4) 附属幼稚園

自分だけのクレヨンを作ろう

指導学年 年長児クラス 実施教科:造形表現 美術教育講座 加藤 隆之

以上のことから、評価基準2に関わる取組み等を着実に推進していると判断している。

【評価基準3】附属学校の使命・役割を踏まえた附属学校の在り方やその改善・見直しについて十分な検討や取組が行われている。

(1)附属学校の使命・役割

附属学校は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づいて幼児及び児童生徒の教育を行い、学部・大学院における幼児及び児童生徒の保育又は教育に関する研究に協力し、大学の計画に従って学生や院生の教育実習を行うとともに、地域の教育界との連携協力の下に地域の教育活動に貢献することを目的としている。

また、平成 21 年 3 月文部科学省事務連絡『「国立大学附属学校の新たな活用方策等に関する検討とりまとめ」について』に関する役員会検討（平成 22 年 10 月）について、附属学校将来構想検討 WG において、各項目における検討課題を踏まえた「附属学校将来構想マスタープラン（原案）」を策定し、附属学校運営部会議の審議を経て、「附属学校将来構想マスタープラン（案）」として、学長に具申した。役員会はそれを基に平成 23 年 8 月に、学長のリーダーシップのもとに、大学が有する教育科学、専門諸科学、芸術・スポーツの最新の知見を發揮しながら、地域社会との連携を図り、附属学校の活用に積極的に取り組むことを趣旨とした「本学における附属学校の活用に関する基本方針」（平成 23 年 8 月 23 日役員会決定）を策定し、その基本方針に基づき、附属学校の運営を行っている。

【資料 2-3-A】本学における附属学校の活用に関する基本方針

本学における附属学校の活用に関する基本方針

（平成 23 年 8 月 23 日役員会決定）

1. 大学・学部のもつ人的資源を活用して公立学校とは異なる先導的・実験的な取り組みを行う「国の拠点校」としての機能を高める。
2. 地域の教員の資質・能力の向上や教育活動の推進に寄与する「地域のモデル校」としての機能を高める。
3. 附属学校の組織改革を行い、附属学校が掲げる教育研究課題を精練するとともに、附属学校教員の待遇改善とその資質能力の向上を図り、附属学校としての教育研究機能の強化を図る。
4. 大学との確固たる連携を図り、現代の教育課題に応える新たな教育研究の推進や教育実習の充実に取り組むとともに、附属学校教員による大学教育の充実を図る。
5. 学外教育機関や地域の公立学校との連携を強化し、附属学校のさらなる充実を図る。

【別添資料 2-3-1】附属学校将来構想WG 検討資料

## (2)検討や取組の状況

「本学における附属学校の活用に関する基本方針」に対応した附属学校の運営として、「地域に開かれた運営体制づくり」「地域教育界との連携の強化」を図るために、附属学校地域連絡協議会を福岡・小倉・久留米地区において年2回程度開催し、大学・附属学校と県教育事務所等の地域教育関係者から意見を聴取する取り組みを行っている。(21ページ参照)

この附属学校地域連絡協議会での意見を受けて、現場教員の指導力向上を目的とした研修を今年度、福岡小学校において福岡教育事務所と連携し、現場教員の指導力向上も意図した「授業づくりセミナー」を実施している。

また、「ミッションの再定義」への対応として大学改革推進のための部局長懇談会が設置され、審議事項として「附属学校と協働した研究活動の推進」について4項目の検討課題が示され、その具体的な取り組みの内容等について現在検討しているところである。

### 【資料 2-3-2】附属福岡小学校「授業づくりセミナー」

以上のことから、評価基準3に関わる取組み等を着実に推進していると判断している。